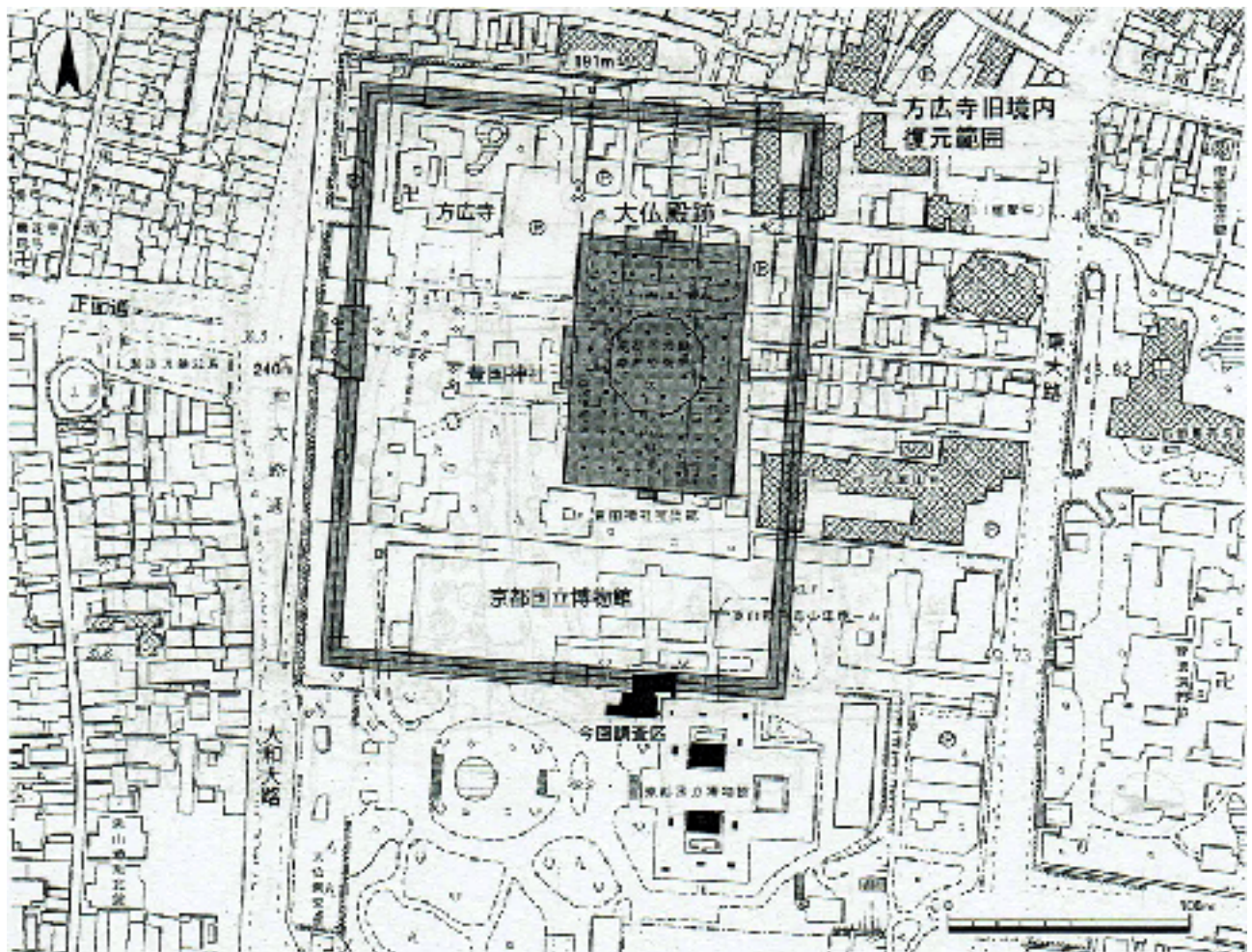


# 方広寺

現在の方広寺は京都府京都市東山区大和大路通七条上ル茶屋町527-2にある天台宗の寺院である。 豊国神社がすぐ南に隣接している。

もともとは豊臣秀吉によって創建された大仏殿で、広大な境内を持っていた。豊国神社はその敷地内に明治になって建てられたものである。

豊臣秀吉が創建した頃の方広寺がいかに広がったか、現在の地図に重ね合わせて見ておこう。



横191メートル、縦240メートルの回廊に囲まれた土地が、秀吉が創建した頃の方広寺の境内で、その中に大仏殿があった。上の地図では大仏殿跡を黒く塗りつぶしてある。秀吉が創建した頃の方広寺の境内には、現在、現在の方広寺と豊国神社と京都国立博物館の新館がある。

では、方広寺の由来を詳しく見ておきたい。出所はウィキペディアである。

天正14年（1586年）、豊臣秀吉は天正地震を機に奈良の東大寺に倣（なら）って大仏の建立を計画し、大仏殿と大仏の造営を始めた。文禄4年（1595年）、大仏殿がほぼ完成し、高さ約19メートルの木製金漆塗坐像大仏[が]安置された。しかし、慶長元年（1596年）に起きた慶長伏見地震により、開眼前の大仏は倒壊した。このとき秀吉は大仏に対し「おのれの身さえ守れないのか」と激怒し、大仏の眉間に矢を放ったと伝える。

慶長3年（1598年）、秀吉は法要を待たずに死去し、同年、大仏の無い大仏殿で開眼法要が行われた。

大仏殿は高さ約49メートル、南北約88メートル、東西約54メートルという壮大なものであり、また境内は、現在の方広寺境内のみならず、豊国神社、京都国立博物館、妙法院、智積院そして三十三間堂をも含む広大なものであった。大仏殿は、現在、豊国神社が建つ位置にあった。

## 秀頼による造営

秀吉の子豊臣秀頼が遺志を継ぎ、片桐且元を中心に今度は銅製で大仏の再建を行ったが、慶長7年（1602年）11月、鋳物師（いも-じ）の過失により仏像が融解して出火し、大仏殿は炎上した。これには、「放火による慶長9年（1604年）の焼失」とする異説もある。慶長13年（1608年）10月には再び大仏および大仏殿の再建が企図された。大仏殿の創建は慶長15年（1610年）から行われ、徳川家康も諸大名に負担その他を命じ、自身も米の供与や大工・中井正清を送っている。また、大仏に貼られる金の板金は江戸で鋳造されている（『当代記』）。6月には地鎮祭が行われ、大仏殿と銅製の大仏は慶長17年（1612年）に完成した。

慶長19年（1614年）には4月、梵鐘が完成し、南禅寺の禅僧文英清韓に命じて銘文を起草させ落慶法要を行おうとしたところ、7月には梵鐘の銘文について徳川家康より「不吉な語句がある」との異議が唱えられ、法要中止の求めがあった。これが、豊臣家と徳川の争いに発展した、世に言う「方広寺鐘銘事件」である。

なお、その後、寛文2年（1662年）の地震で大仏は小破し、木造で造り直されることになった。この大仏は「都名所図会」によれば高さは六丈三尺（約19m）で、奈良の大仏（14m）

よりもかなり大きかった。大仏殿は「東西二十七間、南北四十五間」（49×81m）で、これも奈良東大寺の大仏殿（57×55m）をしのぐ規模であった。東海道中膝栗毛では弥次北が大仏を見物して威容に驚き「手のひらに畳が八枚敷ける」「鼻の穴から、傘をさした人が出入りできる」とその巨大さを描写する。壊れた方の大仏の銅は寛永通宝の鑄造に用いられたといわれる。

寛政10年（1798年）の7月には大仏殿に雷が落ち、本堂・楼門が焼け、木造の大仏も灰燼（かいじん）に帰した。「京の京の大仏つあんは天火で焼けてな三十三間堂が焼け残ったありゃドンドンドン こりゃドンドンドン」という京のわらべ歌はこの時の火災のことを歌っている。

## 天保年間以降

その後は同様の規模の大仏および大仏殿が再建されることはなかったが、天保年間に現在の愛知県の有志が、旧大仏を縮小した肩より上のみの木造の大仏像と仮殿を造り、寄進した。しかしそれも、**昭和48年（1973年）3月28日深夜の火災によって焼失している。焼失前には、堂内に方広寺と大仏に関する遺物の一部を展示し、通年の拝観も可能であった。**





では最後に、昭和48年の火災についてであるが、京都新聞社に焼けた後の写真が残っているので、それを紹介しておきたい。

<http://www.city.kyoto.lg.jp/shobo/page/0000159532.html>

この火災の原因は、大仏殿西側受付室で使用されていた練炭火鉢の不始末だったが、さらに自動火災報知設備が設置されておらず、手動の設備も故障していたなど、いくつもの不運が重なって大火となったようです。誠に残念！

## 焼失後・・・大仏殿跡緑地（方広寺）

大仏がかつてそこにあったことの名残として今日、鐘銘事件のもとになった梵鐘が吊られた鐘楼（明治再建）と、諸将の名が刻まれた石塁や石塔を見ることができる。大仏殿の台座があったと考えられる場所は、大仏殿跡緑地として整備されている。

大和大路七条にある「大仏前交番」や「京都大仏前郵便局」など、周辺のいくつかの施設名に「大仏」の名を留めている。また瓦の産地としても知られ「大仏瓦」の名が今に残る。かつては門前で名物「大仏餅」も売られていた。

[東西の通りである正面通](#)は、この大仏殿の「正面」につながる通りであることに由来している。

では、現在の方広寺を見てみよう。次のホームページをご覧ください。

[https://blog.goo.ne.jp/kimmy\\_v-kobe/e/9a97838d6258e81f0cec7da50cfe8ae9](https://blog.goo.ne.jp/kimmy_v-kobe/e/9a97838d6258e81f0cec7da50cfe8ae9)